

単元名：筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

教材「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」（光村6年下）

主張文Ⅲ

平和への主張

M・Y

皆さんは、戦争のことをどれくらい知っていますか。戦争というのは、自分たちの国を守ることでもあります。よその国をうばおうとすることでもあります。戦争では、爆弾やミサイル等の武器が使われ、何万、何十万、時には何百万人も人の命をうばってしまいます。戦争は、とても残こくな暴力です。世界の人々は平和を求める気持ちがあるのでしょうか。ぼくたちにも何かできることはないのでしょうか。

ぼくが、どうしても許せないのは、原子爆弾です。世界の原子爆弾の数は、ぼくが調べた資料では、約一万六千五百発となっていました。広島に落とされたようなおそろしい爆弾が、これだけ存在しているのです。体中にガラスの破片がつきささっている人、全身やけどをして、顔がふくれあがっている人。そして、皮膚が垂れ下がり、お化けみたいになっている人。みんなが「み・水を」と言いながら川を目ざし、水を飲んで力尽きる人。放射線で、かみは抜け落ち、血を吐いて死ぬ人。信じられない光景です。地ごくです。でも、これが、原爆が落とされた広島や長崎の現実です。なのに、こんな爆弾が、こんなにも存在すること自体がぼくには、信じられません。

次に、ぼくが大きなしょうげきを受けたのは、世界には、兵隊に、子どもまで使っている国があるということです。五才から十才の子どもまでもが、銃を持って戦争をするのです。子どもに使いやすい軽くてしょうげきの少ない銃があるのです。おそろべきことです。いつ、命をうばわれるか、いつも恐怖と隣り合わせです。ぼくと同じくらいの子どもたちが、銃でうたれて道に転がっている姿など、想像したくありません。助かったとしても、人の命をうばってしまえば、くるってしまうかもしれません。子どもにそんなことができるはずがないのです。正しい人たちは、「子どもは、戦争の道具じゃない。」と言っています。ぼくもその通りだと思います。子どもを使ってまで戦争をするなんて、あまりにも残こなことです。とんでもないことです。

戦争では、たくさんの命がうばわれていきます。しかも、その命のうばわれ方は、目をそむけたくなる、聞くだけで体中が痛くなるようなあまりにも残酷なものです。そして、戦争が終わってからも、さまざまな苦しみや悲しみが待ち受けているのです。こんなことをよいと思う人は、いるはずがありません。この現実をしっかりと知れば、世界のほとんどの人が平和を願うはずです。ぼくは、一秒でも早く戦争というもの、この地球上からなくなってほしいと願っています。そのためには、まず、オバマ大統領の提案で決議された「核なき世界」を早く実現してほしいと思います。ぼくは、少しでも多く戦争の悲惨さをたくさんの人に伝え、戦争をなくすために、小さいけれども、力になりたいと思います。